

統合開発クラウド プライベートクラウドサービス (OpenStack) での基本料設定について

2021年9月29日
生産技術部 クラウド技術センタ

統合開発クラウドでは、費用の障壁を下げより多くのPJに活用頂く事を目的として、無償で利用できる標準提供リソースを設定し、社内システム費を原資として運用しておりました。

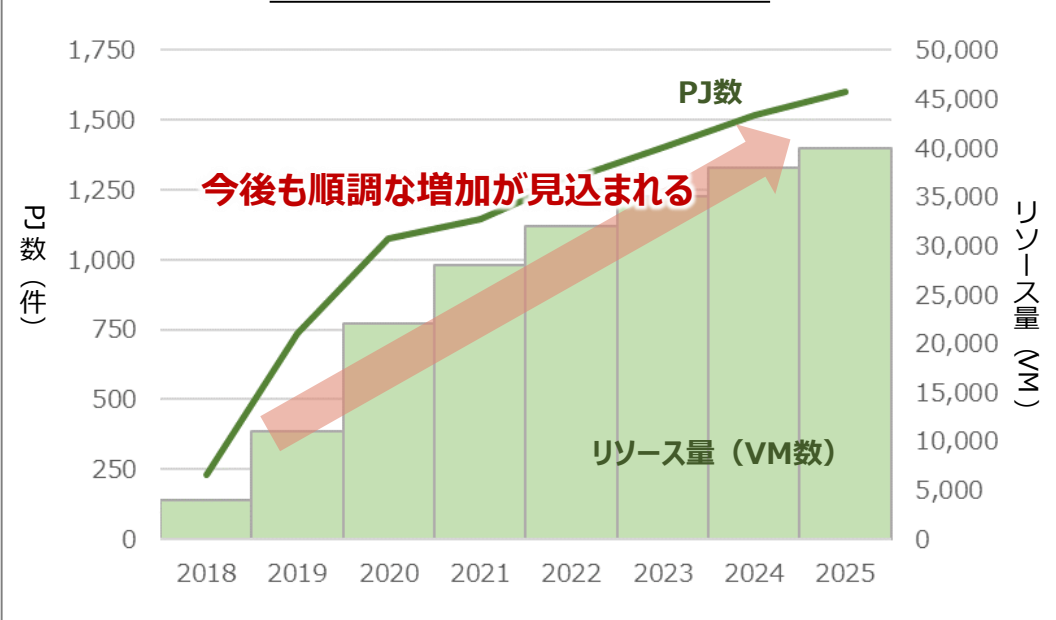
おかげさまでサービス開始以来、利用者の増加においては当初の見込みを上回る順調な伸びを続けております。一方で、当初想定を上回る利用者の増加であることから、リソースの提供にあたりコンピュータ/ストレージの追加が必要となっております。

今後も継続して安定的なサービスを提供するためにも、リソース追加費用を受益者負担で賄いたいと考えており、FY2022から費用負担モデルの見直しを実施いたします。

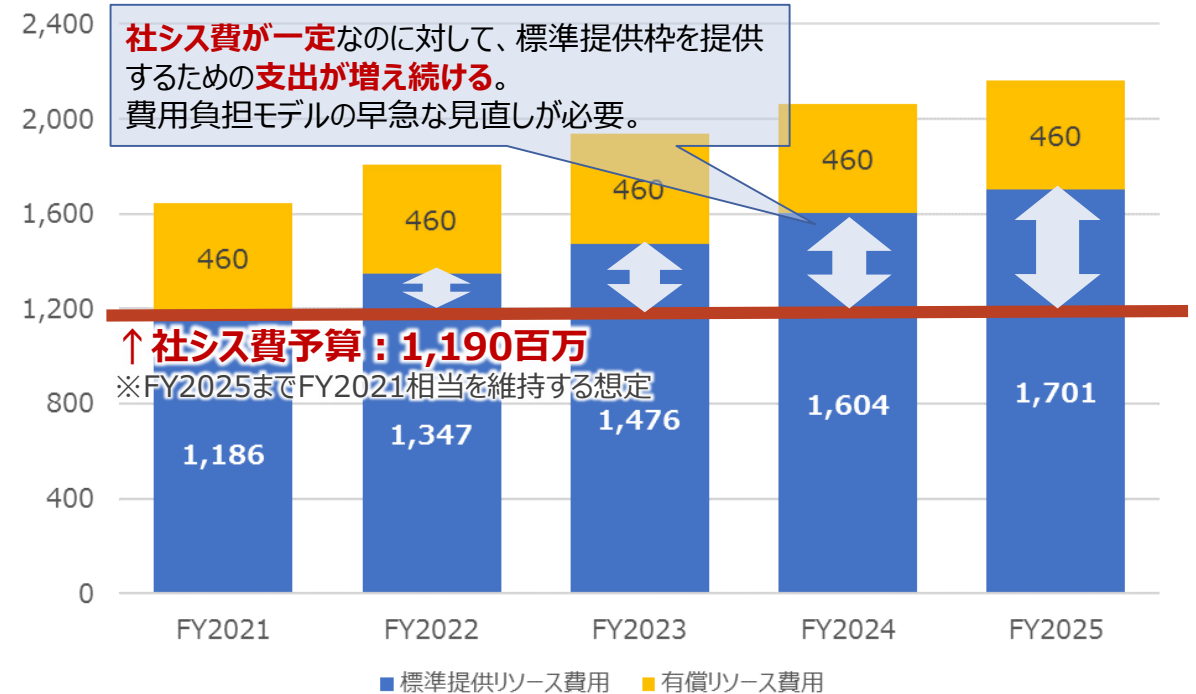
プライベートクラウドサービス提供に関わる収支状況

サービス開始以来、順調に利用者・リソース共に増加が続いている。
これまで社内システム費を原資として標準提供リソースを提供してきたが
利用者数の順調な増加により原資不足が年々拡大する見込み

PJ数と必要リソース量の経年推移



プライベートクラウドサービス (OpenStack)提供に必要なリソース費用



標準提供リソースの超過分としてPJにて負担。
(FY2021相当のボリュームがFY2025まで継続すると想定)

**利用ユーザへの影響および統合開発クラウドリソースの有効活用を考慮したうえで
以下の通り価格改定の方針を定め次年度以降の費用負担モデルを決定した**

- 統合開発クラウドの利用はプロジェクトの原価とみなし、その利用料はサービス受益者の負担と位置付ける
- 利用者間の公平性を担保し、費用負担を最小限に留める
- 費用請求時の事務処理手続き負担を極小化する
- 負担額は一定期間固定とし、プロジェクトの予算計画への影響を極小化する
- 統合開発クラウドのリソースを最大限有効活用し、より多くの利用者にサービスを提供する
- 価格改定後も他の競合製品に対して価格優位性を確保し、開発プロジェクトの原価低減に貢献する

FY2022以降の費用負担モデル

主な 変更点

- プライベートクラウドサービス（OpenStack）の標準提供リソースの完全無償を撤廃し、利用者（NTTD本体・G会社）には半期単位で費用を負担いただく（半期：6万円）

	FY2021 3月まで	FY2022 4月～FY2025 3月
標準提供リソース	<ul style="list-style-type: none"> CPU：40コア メモリ：100GB ストレージ：2TB 	変更なし
価格	無償	半期 6万円 ※ただし、利用開始時の前半期は無償
追加リソース	<ul style="list-style-type: none"> 20コア／50GBメモリ毎：月額 5万円 1TBディスク毎：月額 2万円 	変更なし

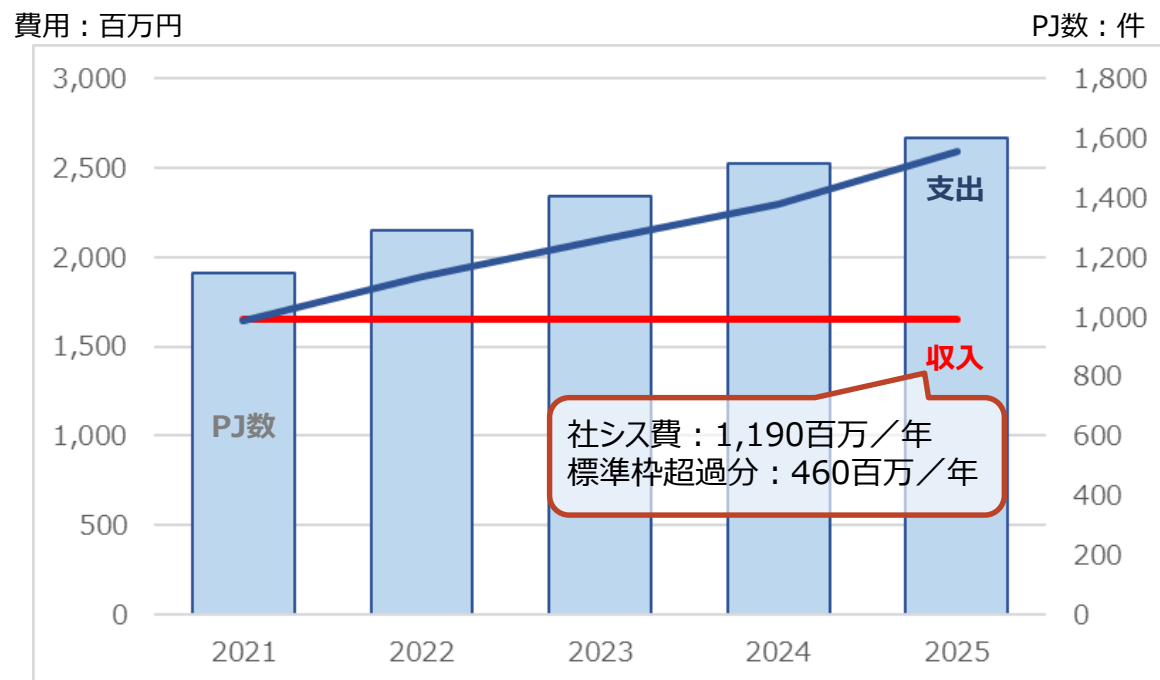
* 標準提供リソース利用料は半期（1Q・3Q※詳細な時期は検討中）に1度の社取請求または請求書払いを行う。（前払い・途中解約無効）

* 追加リソース利用料は、今後四半期に一度の請求処理を行う。

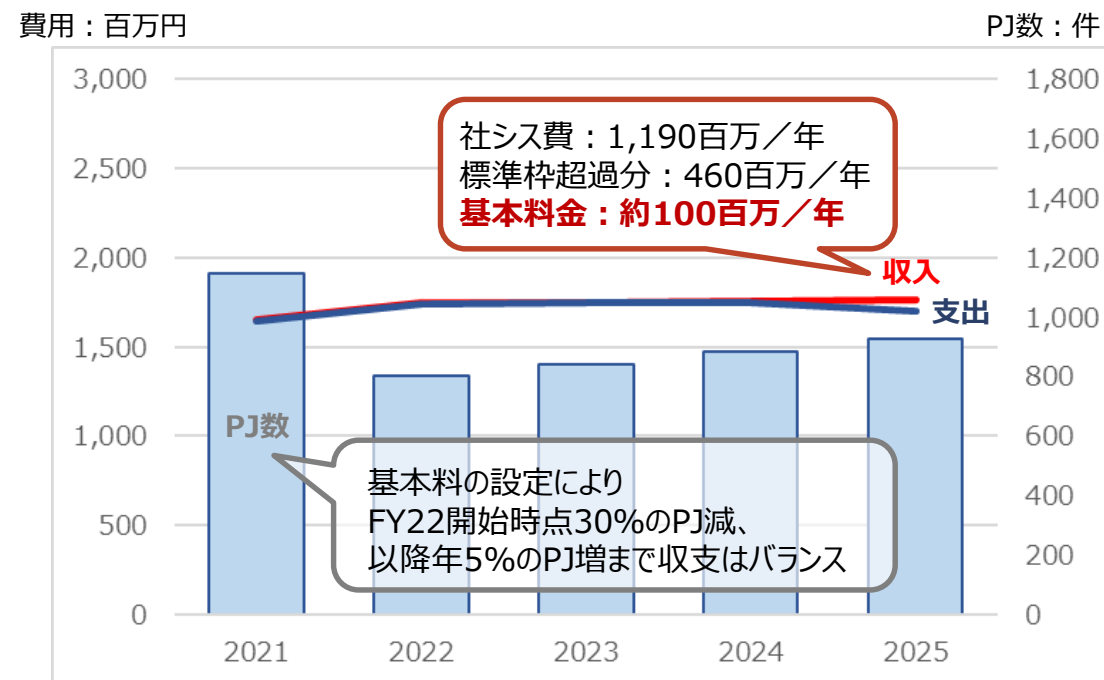
費用負担モデル見直し後の収支見込

費用負担モデルの見直しによりFY2022～2025の収支バランスが保たれる想定。
今後想定条件と実態の乖離が発生した際は、基本料金の再調整を行う方針とする

FY2021時点



費用負担モデル見直し後



【基本料金の再調整が必要なケース】

- FY2022開始時点で30%以上のPJが減少した場合
- FY2022以降のPJ数が想定の上昇率を大きく上回った場合または、標準提供枠を大きく上回るリソースを利用するPJが参入した場合
- 社シス費の予算に変動があった場合

今後のスケジュール

プライベートクラウドサービス（OpenStack）の基本料設定はFY2022から開始する。
FY2022～2025の間基本料は固定とし、
FY2026以降については途中経過を踏まえ1年前の周知を予定する



参考資料

参考：統合開発クラウド・プライベートクラウドサービス料金

統クラでは、費用の障壁を下げより多くのPJに活用頂く事を目的として、無償で利用できる標準提供枠を設定。
(**OpenStack利用PJの89.0%が無償範囲内での利用** (2021年7月時点))

項番	サービス	リソース	標準提供枠	有償リソース分
1	プライベートクラウドサービス OpenStack	CPU/ メモリ	40コア/ 100GBメモリ	20コア/50GBメモリ毎 50千円/月
		ストレージ	2TBディスク	1TBディスク毎 20千円/月
2	プライベートクラウドサービス VMware	CPU/ メモリ	なし	2コア/4GBメモリ毎 6.5千円/月
		ストレージ	なし	1GBディスク毎 20千円/月
3	プライベートクラウドサービス Oracle DB SE2	CPU/ メモリ	なし	2コア/4GBメモリ毎 11千円/月
		ストレージ	なし	1GBディスク毎 20千円/月

参考：競合製品（例：AWS）との価格比較

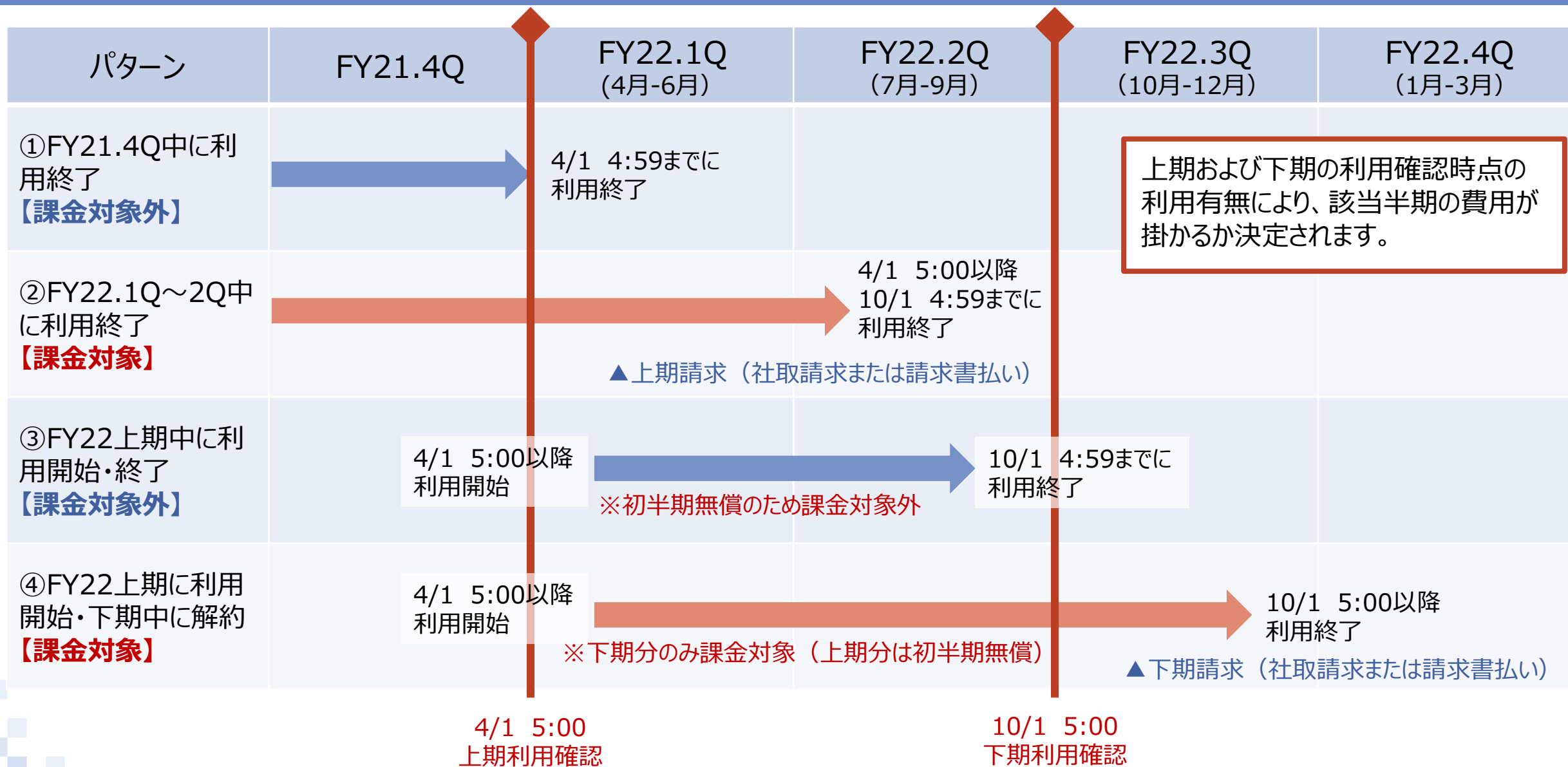
価格改定後も他の競合製品に対して**価格優位性を確保し、開発プロジェクトの原価低減に貢献する**

		AWS				統合開発クラウド プライベートクラウドサービス（OpenStack）			
VM数 開発者数	リソース量	月額合計	内訳			月額合計	内訳		
			基本料	EC2	EBS		基本料	追加リソース 利用料	UDS
1VM 1人	CPU：2コア MEM：4GB DISK：100GB	9,230円	0円	8,170円 x1VM	1,060円 x1DISK	11,500円	10,000円	0円	1,500円 x1人
20VM 20人	CPU：40コア MEM：80GB DISK：2000GB	184,600円	0円	8,170円 x20VM	1,060円 x20DISK	40,000円	10,000円	0円	1,500円 x20人
30VM 30人	CPU：60コア MEM：120GB DISK：3000GB	276,900円	0円	8,170円 x30VM	1,060円 x30DISK	119,000円	10,000円	CPU/メモリ 50,000円 x1 ディスク 20,000円 x1	1,500円 x20人 +900円 x10人
40VM 40人	CPU：80コア MEM：160GB DISK：4000GB	369,200円	0円	8,170円 x40VM	1,060円 x40DISK	198,000円	10,000円	CPU/メモリ 50,000円 x2 ディスク 20,000円 x2	1,500円 x20人 +900円 x20人

EC2：東京リージョン、オンデマンドインスタンス、RHEL、t4g.medium、\$1=¥110

UDS：NW接続＋セキュアインターネットアクセス利用料

参考：費用発生パターン例



これまでコスト低減・構築期間の短縮による開発PJの競争力向上、およびガバナンス強化を目的として利用者拡大・機能充足に対応してきたが、**今後は継続性の維持・高度化対応を目指した施策を展開する。**

